

第22回宇宙開発委員会（定例会議）

議事次第

1. 日時 昭和48年11月28日（水）
午後2時～2時30分
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 (1) 新委員長あいさつ及び委員長代理の指名
(2) その他
4. 資料 第21回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨

第21回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨

1. 日時 昭和48年11月 7日(水)
午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題
(1) 宇宙開発に関する基本計画について
(2) 金属材料技術研究所のスカイラブA計画への研究参加
結果について（報告）
4. 資料
委21-1 第20回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨
委21-2 宇宙開発に関する基本計画案
委21-3 スカイラブ共同実験に関する中間報告
5. 出席者
宇宙開発委員会委員（臨時委員長代理） 細 島 毅
" 吉 謙 雅 夫
" 八 藤 東 福
説明者
金属材料技術研究所疲れ試験部長 吉 田 進
" 特殊材料研究室長 高 橋 仙之助
関係省庁職員等
科学技術庁研究調整局宇宙開発参事官 山 野 正 登

気象庁総務部長

間 孝

（代理：山本）

海上保安庁総務部長

高 野 晟

（"：樋口）

郵政省電波監理局審議官

市 川 澄 夫

（"：園山）

郵政省電波監理局無線通信部長

平 野 正 雄

科学技術庁振興局管理課

青 木 照 美

郵政省電波監理局

岡 井 元

金属材料技術研究所管理部企画課

樋 口 晃 敏

宇宙開発事業団システム計画部

高 木 邦 寛

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長 松 元 守 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨について

第20回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨が確認された。

(2) 宇宙開発に関する基本計画について

事務局から標記の件について、資料21-2に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われたのち、議決された。

八藤：今回から基本計画に関する発議権の所在が内閣総理大臣にあることが明確にされているが、根拠法文は何か。

事務局：宇宙開発事業団法第24条に拠っている。また、原子力局においても同様の取扱いをすることとしている。

吉謙：内閣総理大臣に発議権があることと、内閣総理大臣が基本計画案を示すこととは意味が違うと思われるがどうか。

事務局：宇宙開発委員会はこの基本計画案について審議を行い、必要に応じて修正等を行つたのち議決してほしいということである。従つて、基本計画の中味は委員会が決定を行うこととなる。

八幡：予備費の使用は認められたのか。

事務局：去る11月6日の閣議で決定された。

網島：基本計画案には通信、放送両衛星に関する2つの委員会決定が並記されているが、これで混乱が生じないか。

事務局：昭和48年10月29日の決定は、現行計画で開発研究を行うこととされている通信、放送両衛星に開発を追加しているものであるので、混乱は生じないと思われる。

(3) 金属材料技術研究所のスカイラブA計画への研究参加結果について（報告）

吉田進 金属材料技術研究所疲れ試験部長及び高橋仙之助同特殊材料研究室長から標記の件について資料委21-3に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

吉田：二成分が均一に分散した資料を地上で作製するのは、技術的に複雑な手順を要すると思うが、これを宇宙空間で行えば簡単ではないか。

吉田：指摘されたとおりである。ただし、実験室の寸法、重量等が限定されているので、あえて地上で資料を作製し、地上における資料成分の分布状態と宇宙における熔融後の資料成分の分布状態が変わらないことを確認した。また、均一性を得るだけならば地上における粉末冶金的な焼結だけで十分であるが、この場合はホロシテイ（有孔膜）が大きくなるという

欠点がある。従つて熔融時には加圧して、この内部欠陥を無くしている。

網島：本実験の最終的目的は何か。

吉田：無重力環境下における材料作成技術の確立のための基礎的なデータ取得である。